

第7回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会 北九州集会結果報告

- 1 日 時 令和2年11月21日(土) 12時30分～19時30分
- 2 会 場 北九州市立いのちのたび博物館
※新型コロナ感染症対策のため、定員75名
北九州市八幡東区東田-4-1 093-681-1011
- 3 主 催 空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会
- 4 共 催 北九州市立いのちのたび博物館
非営利活動法人 北九州市の文化財を守る会
- 5 参加費等 500円 参加者 51名[内、受付等地元事務局11名]
- 6 交流会
 - (1) 受付開始 12:30
 - (2) 開 会 13:00
 - 主催開会挨拶 工藤 洋三
 - 地元歓迎挨拶 非営利活動法人 北九州市の文化財を守る会 前薗 廣幸
 - (3) 第1部 [北九州地区の現状報告] 司会:(国崎・草場さん) 13:20～14:00
 - ①「(仮称)平和資料館の概要」
田爪 康隆(北九州市総務局総務課平和資料館担当課長)
 - ②「蕪(かぶら)崎(さき)[北九州市門司区]に残る陸軍海上挺進隊基地の概要」
前薗 廣幸(北九州市の文化財を守る会)
 - (4) 第2部 [空襲調査及び各地の調査事例と紹介] 14:00～17:10
 - ③「極東航空軍第28写真偵察戦隊」
工藤 洋三(空襲・戦災を記録する会全国連絡会議)
 - ④「第82戦術偵察飛行隊と第110戦術偵察飛行隊」
織田 祐輔(豊の国宇佐市塾)
 - ⑤「島野浦空襲」
永益 宗孝(長崎県松浦市)
 - ⑥「福岡における米軍搭乗員処刑と恩讐を超えた米国遺族との慰霊祭」
深尾 裕之(大分県国東市)
 - ⑦「8月10日空襲下の熊本と空襲慰霊碑」
高谷 和生(くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク)
 - ⑧「第112震洋隊 間泊基地の調査」
かごしまの戦跡を探る会
 - ⑨「山家地下壕の再検討」
相戸 力(福岡市中央区)
 - ⑩「鹿屋基地 進駐軍管理下の日本軍爆弾庫の爆発による集落火災と犠牲者」
小手川 清隆(鹿屋平和ガイド)
 - (5) 閉 会 17:10
 - 主催閉会挨拶・次年度開催地紹介 高谷 和生
 - 事務連絡(情報交換会、見学会案内 等)
- 7 懇親会 11月21日(土) 20:00～22:00
会 場 焼鳥玉ちゃん[所在地:八幡東区春の町5丁目12-13 電話: 0120-891-061]
参加者 22名
- 8 現地見学会 11月22日(日)
 - 9時/八幡駅前出発～
 - ① 矢筈山堡壘～② 陸上自衛隊小倉駐屯地史料館～昼食(車中等)～③ 電波標定機陣地～
 - ④ 灘山十二糎高射砲陣地～⑤ 軍艦防波堤～
 - 16時半/小倉駅解散
 - 参加費 2,000円: [レンタカー(8人乗り)2台、軽自動車1台他]
 - 参加者 21名
- 9 報 道 西日本新聞社(11/22 朝刊) 朝日新聞社(11/23 朝刊) 2社

1 研究集会の状況



開場前の会場準備状況



受付状況



集会開始時の参加者席



集会開始時の説明



主催者挨拶



地元挨拶



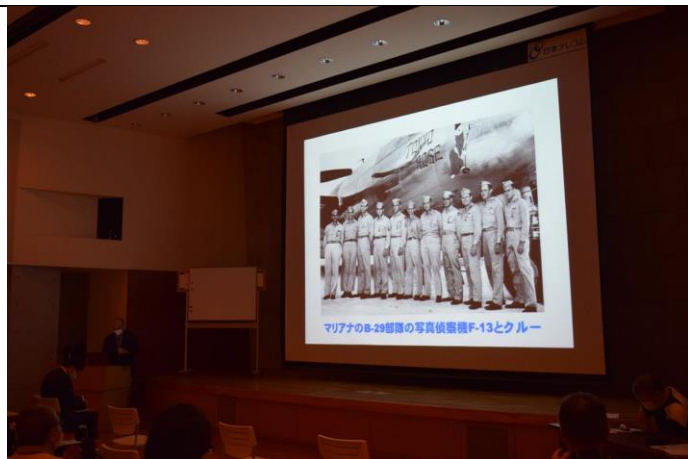
①田爪課長の発表



平和資料館への要望・武末純一氏



②前蘭の発表



③工藤さんの発表



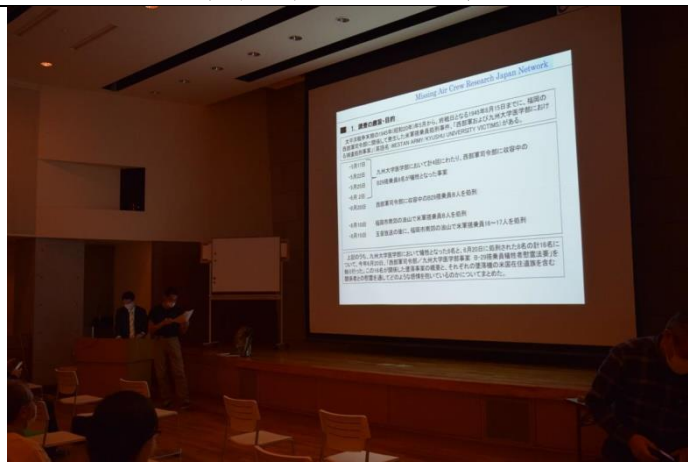
④織田さんの発表



発表に聞き入る参加者



⑤永益さんの発表



⑥深尾さんの発表



司会進行の国崎さんと草場さん



⑦かごしまの戦跡を巡る会の発表



⑧高谷さんの発表



⑩相戸さんの発表



⑪小手川さんの発表



第二部閉会挨拶



第三部の様子

会場の
いのちのたび博物館
外観



2 見学会の状況



矢筈山堡塁



矢筈山堡塁



矢筈山堡塁



自衛隊史料館



自衛隊史料館



灘山十二糧高射砲陣へ



灘山十二糧高射砲陣



軍艦防波堤

九州・山口各地から 北九州で成果報告

空襲 戦災 戦跡 調査は続く

空襲や戦災、戦争遺跡について調査している九州・山口の市民団体や個人が、調査の成果を報告して情報交換しあう集会が21日、北九州八幡東区で開かれた。2014年に始まり、毎年、開催地を移して開いている。今年はおくたの官営八幡製鉄所の中心だった東田地区に立つ、いのちのたび博物館の講堂を会場に選んだ。

主催者を代表して「空襲・飛行場 九州各地の駅などの戦災を記録する会全国連絡会議」の工藤洋三さん（山口県周南市）があいさつ。米軍の長距離爆撃機B29が初めて日本本土を空襲した際、目標が東田地区の製鉄所施設だったことを紹介し「歴史的な場所での会となった」と話した。

米偵察戦隊

長年、米軍の公文書の解析を通じて日本への空襲や原爆投下の実態解明に取り組んできた工藤さんは、終戦直後の沖繩を拠点にした米軍第28写真偵察戦隊の活動について報告した。

作戦の日付や目標、詳細などが記された「作戦任務最終報告書」を分析し、作戦概要の「一覧表」をつくった。工藤さんによると、偵察戦隊の目的は米軍の南九州上陸への準備で、「一覧表からは南九州を中心に北部九州、四国や本州の

平和資料館

北九州市からは、2022年度に市が開館を予定している平和資料館（仮称）について、田川康隆担当課長が説明

調査の成果について発表する前園広幸さん＝北九州市八幡東区



海上挺進隊

平和資料館は、長崎に投下された原爆の最初の目標地点でもあった巨大な兵器工場、小倉陸軍造兵廠の跡地の一角に建てられる。展示室に入っ

た。映像や音響を活用した360度シアターでは、1945年8月9日に原爆を投下した米軍の爆撃機が小倉上空を飛来した後、長崎に向かった出来事を追体験する展示内容を用意すると紹介した。

鹿屋の爆発事故 米資料で全貌

終戦3カ月後の悲劇

鹿児島県鹿屋市平和学習ガイド・調査員の小手川浩隆さんは、終戦から約3カ月後に鹿屋市郷之原地区で起きた弾薬集積所の爆発事故について報告した。3年半前の聞き取り調査で初めて知った。住民の証言によると、1945年11月8日、地区内の集積所で爆発が起きた。約60戸が全焼。2人が亡くなったという。

その後、資料を探したが、当時の新聞以外は見つからなかった。最近になり、鹿屋市が米国立公文書館から資料を取り寄せて、全貌が明らかになった。（吉田啓）

山家地下壕

福岡市中央区の元中学校教育、相戸力さんは終戦近くになつて筑紫野市山家に旧日本軍が築いた「山家地下壕」について報告した。

関連資料を集めて読み込んだところ、1944年夏ごろから準備が始まり、翌45年1月に掘削工事が始まったと考えられるという。

また、建設には筑豊の各炭鉱から動員されたほか、山家の近隣地域にも約千人の工事を要員の要請があったといった記述に行き当たったと発表した。

戦災や戦争遺跡 研究事例を紹介

九州・山口地区交流会

八幡東

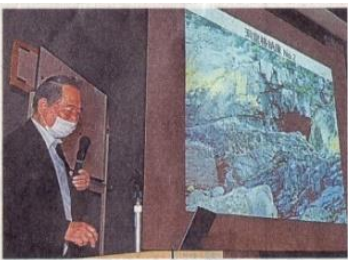
九州・山口で近現代の戦災や戦争遺跡を調査するグループ、研究者の交流集会が21日、八幡東区の北九州市立いのちのたび博物館で開催された。約50人が参加して各地の研究事例を紹介しあつた。

「空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会」と題して2014年

から年1回開かれ、北九州では初めて。北九州地区からは、NPO法人「北九州市の文化財を守る会」の前園広幸理事長（68）が門司区大橋に残る旧陸軍の基地跡について報告した。

海に面した岩をくりぬき、コンクリートの構造物を設けた場所が10カ所残る。同会では住民の証言などから、終戦直前に旧陸軍が作った海上特攻艇の基地跡とみている。ただ、配属部隊を示す文書が旧陸軍の史料で確認されておらず、詳細は不明と紹介された。

大分県の参加者からは、国東半島に似た施設があることや、輸送艇の基地である可能性も指摘された。前園理事長は「有意義な指摘が得られた。より深く検討したい」と話していた。同市関連ではこのほか、小倉北区の勝山公園の一角に建設中の平和資料館（仮称）について、市の担当者による概要説明もあった。（古瀬哲裕）



交流会では門司区に残る旧陸軍の船の格納庫跡が紹介された